

日本海洋学会 2014 年度秋季評議員会議事録（案）

日時：2014 年 9 月 14 日（日）18：00～19：40

場所：長崎大学水産学部 2 階大会議室

出席者：植松会長、須賀副会長、小池監事、秋友、石坂、石丸、磯辺、市川（香）、市川（洋）、伊藤、植原、江淵、大島、岡、小川、加藤、川合、河宮、神田、岸、轡田、久保田、倉賀野、齊藤、島田、清野、千手、武岡、武田、津田、中田、羽角、花輪、日比谷、古谷、升本、松野、道田、三寺、見延、安田、柳、山形、山中、吉田各評議員、小畑、河野、杉崎、原田各幹事、小笠論文賞選考委員長、栗原環境科学賞選考委員長、中田大会委員長、中野 2015 年春季大会委員長代理、中村西南支部事務局長、速水海洋環境問題研究会長、門谷沿岸海洋研究会長、山城西南支部長（57 名）

委任状：今脇監事、淡路、安藤、池田、磯田、蒲地、蒲生、根田、田上、深澤、藤原、XIE 各評議員（12 名）

開会に先立ち、集会担当幹事から出席者数の確認があり、評議員会細則第 3 条の規定により、評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。引き続き植松会長から発言があり、本年 4 月 17 日に逝去された故才野敏郎評議員に黙祷を捧げた。なお、才野評議員の逝去に伴い、島田浩二会員が評議員となったことが報告された。

1. 会長挨拶（植松会長）

佐野有司会員ならびに桜井泰憲会員が第 7 回海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）を受賞した。学会運営の方針に掲げた「6 本の矢」に関連して、以下の報告があった。

- ・日本学術会議の大型研究計画について、本学会から提案し学術大型研究計画に採択された 1 件は、重点大型研究計画には採択されなかった。次の大型研究計画に向け、地惑連合等のもと複数学会で取り組むというアイデアが日本学術会議の地球惑星科学委員会で議論されたようである。

- ・同じく日本学術会議でも対応を検討しているフューチャーアースについては、国内での事業が立ち上がることは確かなようであるが、具体像はまだ見えない段階である。今後の動向を注視し、学会として積極的に対応したい。

- ・若手育成については、若手による集会の助成や NL での若手コラム連載の掲載を行っている。本学会期間中にも 16 日に若手との懇談会が予定されている他、若手による懇親会が行われ、盛況だったと聞く。

- ・国内外の学会との交流について、水産・海洋学研究連絡協議会への参加、海洋政策学会理事の派遣、札幌で開催された AOGS をはじめとする国際的な学術集会などに積極的な対応をしている。

- ・会員の情報交換促進、会員しての特典拡大の一環として、JOS ニュースレターの充実を

図ってきた。

- ・学会大会の運営について、シンポジウムの肥大化と大会セッションの関係、セッション制の導入などについて、大会運営改善 WG での検討を続けている
- ・海洋観測ガイドライン（仮称）については、WG からの提案があり審議事項として審議いただきたい。
- ・学会財政について、「海の研究」印刷会社の変更による経費削減、JO 掲載料の課金開始などの努力を行ってきた結果、改善の見通しが出来つつある。海洋未来技術研究会の解散、海ロマン 21 からの寄付金の減額などについて対応している。日本海洋科学振興財団とは協力関係の拡大についての先方からの提案を受けて、庶務幹事を中心に対応中である。
- ・事業年度の開始時期については、大会運営のあり方も含めて引き続き検討中であるが、検討結果がまとまるまでは現行の開始時期とする。
- ・会長として掲げた運営目標の多くは達成されつつあり、学会をとりまく環境が激変していることも踏まえて、今年度の役員選挙では 1 期 2 年を務めた会長・副会長の慣例とされていた再任について、見直す事を検討したい。

2. 大会委員長挨拶（中田大会委員長）

2003 年 9 月以来の長崎での大会で、長崎大学および西海区水産研究所の会員の担当で開催しており、前回に引き続いて 2 回目の委員長をつとめている。参加者は、現在までに 406 名（うち事前登録 358 名）である。口頭発表数は 155 件、ポスター発表は 75 件、シンポジウムは 4 件である。本大会では基調講演の場を設けて、3 名の方々に講演をお願いした。

3. 報告事項

1) 会務報告

・庶務（岡幹事）

資料に基づき、2014 年 2 月から 7 月までの会員異動の報告がなされた。7 月末現在の会員数は 1,749 名である。またシンポジウム等の開催、共催についても資料に基づき報告があった。

・編集

JO（日比谷編集委員長）

順調に刊行しているが、70 巻 4 号は論文数が揃うまで少し遅らせている。8 月 1 日から投稿料の課金が始まったが、課金開始に伴う投稿数の大きな変化は生じていない。2013 年の IF が 1.464 に上昇した。津田敦会員から提案された特別セッションを承認し、中村、本多両会員の特別セッションと共に編集中である。二重投稿および自己剽窃の不正投稿が各 1 件あった。課金開始と不正事例の発生を受けて、Editorial Manager の画面上での投稿手順に変更を加えた。また、2013 年の Springer からの印税支払い予定額の報告があった。

海の研究（久保田編集委員長）

順調に刊行しており、23巻5号までオンライン公開済みである。24巻1号まで掲載論文が決まっているが、査読中の論文数が少ないので投稿の呼びかけをお願いしたい。印刷会社の変更によって年間約100万円程度節約できる見込みである。

JOS ニュースレター（津田編集委員長）

順調に刊行されている。

・研究発表（山中幹事）

2015年度春季大会は2015年3月21日（土）から25日（水）の予定で、気象庁所属の会員の担当により、東京海洋大学を会場に開催される。

・賞選考

学会賞・岡田賞・宇田賞（安田委員長）

9月5日に推薦を締め切り、委員の推薦も併せて、学会賞2名、宇田賞3名、岡田賞18名を対象に選考を行っている。大会期間中の9月14日に選考委員会を開き、次回（第3回）は11月3日の予定である。

日高論文賞・奨励論文賞（小笠委員長）

日高論文賞については5報まで候補を絞り、選考している。奨励論文賞は対象論文が確定してから選考に入る。大会期間中の9月14日に選考委員会を開き、次回（第3回）は11月11日の予定である。

環境科学賞（栗原委員長）

9月5日に推薦を締め切ったが、残念ながら会員からの推薦がなかった。委員会で候補者をリストアップして選考する。

・選挙管理（山中幹事）

9月5日に役員選挙の公示を行い、今後の幹事選挙、賞選考委員半数改選、賞可否投票とあわせて、日程について資料にもとづいて報告された。

・広報（杉崎幹事）

ホームページを昨年リニューアルし、鋭意改訂中である。特に、行事一覧のページを設けたので、積極的に活用すると共に掲載イベント等の連絡をお願いしたい。また9月10日に秋季大会開催および研究発表内容のトピックスについてプレスリリースを行った。

・海洋環境委員会（岡委員長代理）

青い海助成事業について、今年度第2回の募集を行っている。

・海洋環境問題研究会（速水研究会会長）

今大会中に例会を行い、有明海研究についてのシンポジウムを開催した。

・沿岸海洋研究会（門谷研究会会長）

沿岸海洋研究は52巻1号まで刊行した。シンポジウムを今秋季大会の最終日に開催す

る予定である。

・教育問題研究会（岸研究会会長）

資料にもとづき、活動状況の報告があった。8月に女子中高生夏の学校 2014 に参加する等の活動を行った。今大会期間中（9月13日）にサイエンスカフェを開催し、シンポジウムも開催した。研究会のウェブサーバーを北大から民間に移した。教育課程における海洋関係の内容充実について学会本体から提言して欲しい旨の要望があった。

・西南支部（山城支部長）

資料にもとづき、活動状況の報告があった。12月5日に琉球大学において、東シナ海の観測についての合同シンポジウムの開催を予定している。一般講演を募集中であり、積極的な参加をお願いしたい。

・大会運営検討WG（岡幹事代理）

8名で構成されるワーキンググループ（庶務幹事、研究発表幹事含む）が議論を継続している。参加費不要のシンポジウムの件数が増えて、本大会の研究発表数が伸び悩んでいる状況等について、改善の方策を検討中である。次回の春季大会では、シンポジウムの募集を例年より早めて幹事会で行い、本大会セッションに移行出来る可能性があるもの等があれば主催者と協議する。

・海洋観測ガイドラインWG（河野幹事）

2014年4月に設置されて、3回の議論を経たが、本評議員会に審議事項にある通りの提案を行う。

2) 学会関連報告

・学界動向（須賀副会長）

学会動向については大会直前のニュースレターに文書で掲載することにして、今回も配布を終えている。重要事項および原稿締め切り後のトピックスについて報告された。日本学術会議は第22期が9月に終了し、第23期が発足予定である。フューチャーアースの国際事務局の1つが東大に設置された。1998年に発足したCLIVARは2013年をもって終了したが、海洋関係を強化した同一略称の新しいCLIVARが発足している。

・日本地球惑星科学連合（原田幹事）

第5期の体制が発足し、海洋学会から2名の理事（日比谷会員、原田会員）が選出された。新雑誌も発行されている。2015年大会は、会場を幕張メッセに戻して開催予定である。会員数は8,992名となった。

・水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事）

昨年度の発足以降、大型研究計画に関する情報交換などを行ってきた。東日本大震災に関連した日本学術会議主催の学術研究フォーラムを昨年引き続き11月に開催する。今年は東北マリンサイエンス関連の講演も加わる。

3) その他

- ・震災対応（神田幹事）

津田前副会長のお世話で、震災対応 WG 報告書が印刷された。

- ・植松会長から評議員へ、科学技術予測調査のアンケートへの協力依頼がなされた。

4. 審議事項

1) 2015 年度秋季大会の開催について（山中幹事）

2015 年 9 月 24 日～28 日に愛媛大学を会場とし、武岡英隆会員を大会実行委員長として開催することが提案され、承認した。武岡会員から挨拶があった。

2) 「海洋観測ガイドライン（仮称）」編集委員会の設置について（河野幹事）

海洋観測ガイドライン WG の議論を踏まえ、海洋学会としてオンライン版（日本語、英語）を順次発行することについて、議論の上で承認した。今後継続的にアップデートする計画であることから、会則 22 条にもとづく委員会を発足させて対応することが提案され、承認された。

5. その他

中野 2015 年度春季大会委員長代理から、次回春季大会に向けて挨拶があった。